

# たじみん昼話 16

## やってみなはれ

2019年2月12日、東京オリンピックの金メダル候補である競泳の池江璃花子選手が、急性リンパ性白血病を患ったことを公表した。白血病は、血液の癌という病気だ。ここが癌化すると、我々の体内に進入した細菌やウィルスの排除が出来なくなり血液を作ることができなくなる。さらに、臓器の働きが阻害されて生命活動そのものが脅かされる危険性がある。

この治療方法には、「増殖させた臍帯血細胞の利用」、「薬や放射線で悪い作用を抑える」、そして、安全性が高い「血液を作る骨髄の移植」という3つがある。しかし、これらの治療には様々な問題がある。1番目の治療には骨髄や臍帯血の合致者探しという難問題がある。2番目の治療は高額（米で5000万円、日本で500~1500万円の自己負担。または、「高額療養費制度」が適用されれば自己負担は100万円）なうえに副作用が激しいという問題がある。そして、3番目の治療は、高額で時間がかかるという問題がある。

薬は開発費がかかるから高額なのは理解できる。では3番目の細胞移植はなぜ高額で時間がかかるのだろうか。実は、移植する細胞を増やすのに0.5ℓで数万円もする培養液を使用するからだ。しかもこの培養液は、成功率が低いため何回も行う必要があり、時間と使用量が膨大に必要なからだ。

ところが、3番目の治療法に朗報が舞い込んだ。それは培養液に数百円の液体のり（アラビアのり、）が使えることがわかったというものだ。様々な培養液候補をしらみつぶしに試していて、最後に「これは無理だよな」と思ったがとりあえずやってみようと考え、やってみたら上手くできた」と、発見者の東京大の山崎聡特任准教授らは語っている。しかも、従来の培養液より、数百倍も確実に作ることが出来るため時短が図れるというおまけつきだ。関係者は、価格が劇的に下がり患者さんの負担も大幅に軽減すると喜んでいるそう

だ。

数百円ののりで、数万円を遙かにしのぐ作用が期待できるとは、もの凄い発見だ。

生徒の皆さん、これは無理だなあとあきらめないで、ときにはとりあえずチャレンジしてみませんか。自分史上最高の発見に遭遇するかもしれませんよ。